

令和5年度 柏原市子育て支援プログラム

学科・専攻

教育学科・子ども発達教育専攻

担当教員

太田顕子、木村将夫、香田健治

連携先

柏原市こども未来部子ども政策課
つどいの広場ほっとステーション

プログラム内容

- ①開所時間帯の学生ボランティア活動(3歳以下の乳幼児、保護者との交流)
- ②行事等への学生ボランティアの派遣
- ③講習会等への講師派遣
- ④運営委員会への出席

成果・考察

開所時間帯の学生ボランティア活動(3歳以下の乳幼児、保護者との交流)では、令和5年11月1日(水)と11月29日(水)につどいの広場ほっとステーションにおいて、各回5名の学生がボランティアとして参加した。これまで学生は、乳幼児とのふれ合いや関わり合いをすることがほとんどなかった。ボランティアでの絵本の読み聞かせ、手遊びなどを通じて、実際に地域の乳幼児とコミュニケーションを図ることによって、乳幼児との関わり方などについて、理解を深めることができた。また、保護者の方々との会話を通して、保護者の保育・教育に関する考え方や、悩みなどを聞くことができた。

次に、行事等への学生ボランティアの派遣では、令和5年9月30日(土)の子育て応援イベント「親子でハッピーフェスティバルinリビエール」に学生7名がボランティアとして参加した。学生は来場した子どもや保護者への対応と、各イベントブースでのスタッフを担当した。学生は地域のイベントについて理解を深めるとともに、子育て支援にも関心をもつことができた。また、直接子どもと触れ合うことで、とても貴重な経験となった。



教員インタビュー

子どもや保護者とふれ合ったり、関わったりする機会の少ない学生にとって、ほっとステーションでのボランティアはとても意義あるものと思います。学生が子どもたちとふれ合う中で、子どものもつ興味や関心、発達の特性などに気付くことで、今後の実習や学修に役立つと考えます。また、絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊びを通して、保育実践上の課題についても気付くことができたといえます。一方で、このような施設でどのような取組が行われているのかについても学ぶことができたと思います。



学生インタビュー

ほっとステーションでのボランティアに参加してみて、最初は子どもや保護者の方に何をどのように話したり、関わったりしたらよいのかが分かりませんでした。

紙芝居の読み聞かせのときに子どもたちが紙芝居を触ってきたので、そのようなときにどのように対応してよいのかが分からず困りました。

後ほど、施設の方から最初にどこまで近づいてよいのかを子どもたちに指示しておくといいと教えてもらえてよい学びとなりました。